

旭川市地域活性化モデルケース(都市・地域)提案書(地方都市型)

地域活性化モデルケース都市としての位置づけ

北のプラチナシティ“あさひかわ”を目指して— 誰もが多様な生きがいを見つける積雪寒冷都市

【当市の強みと役割】

当市は、我が国最北に位置する拠点都市であると同時に、良質な食材の宝庫で、多くの医療機関が集積するなどの強みを持っている。今回の提案では、当市が果たすべき次の3つの役割から、積雪寒冷地という気候条件や旭川医科大学の研究テーマなど、地域の特性や資源を活かした取組を通じて、少子高齢化に対応したモデルケースとなるまちづくりを進めていく。

(1) 我が国の中で果たす役割(東京から見た旭川の視点)

「良質な食材」「医療集積」「豊かな自然」を活かし、生きがいを求める高齢者や癒しを求める人々の療養や移住の受け皿に

(2) 地域の中で果たす役割(北・北海道から見た旭川の視点)

「交通の拠点」「食材の集散地」「産業支援機能」を活かし、北・北海道の食を全国へ発信し、地域産業を底支え

(3) 中心市街地が果たす役割(郊外から見た中心市街地の視点)

「買物公園」「医療集積」「郊外アクセスの良さ」を活かし、冬でも便利で快適な移動手段や、生きがい溢れる充実した生活を実現

これらの役割を果たすためには、「都市機能の整備・集積」と合わせて、経済の動脈である「地域産業の成長」を一体的に推進することが不可欠
(※北海道産業競争力強化戦略の取組の方向性に合致する。)

【目標像】

進め方として、中心市街地での高齢者等の多様な生きがいの実現や、健康で安心な暮らしの提供によるまちなか居住の促進、観光客等への「食」や「観光」の魅力を増すとともに、寒さが旨味を育む北・北海道の農・畜・海産物を活用した健康食などの商品開発と販路拡大により産業の活性化を図る。

「健康」と「食」という2つのアプローチで、高齢者(シルバー世代)がより充実した生活ができる活力ある都市(プラチナシティ)を実現したい。

また、今回の提案により、大型店出店が予定され、商店街の衰退が懸念される地方都市のモデルとしても、先導的役割を果たしたい。

なお、策定中の次期総合計画(H28年度～)に、今回の提案の考え方を反映させていく考えである。

現状分析(都市・地域の超高齢化・人口減少社会の実態等)

- ◆当市の人口は349,316人(H25.9月末現在)で、過去4年間で3,819人(約1.1%)も減少した。
- ◆一方、中心市街地活性化基本計画に基づく子育て支援施設併設型住宅など、まちなか居住の促進の取組みで、中心市街地人口が185人(H22-25)の増加。また、買物公園約1kmに約330の屋台が軒を連ねる「北の恵み食べマルシェ」の実施など来街者を増やす取組みが奏功し、H元年以来はじめて歩行者通行量が増加に転じた。
- ◆当市の高齢化率は、H25年9月末現在で全道平均(65歳以上26.7%)を上回る28.1%で推移しており、対応が急務である。
- ◆医療環境は、H24年12月末における人口10万人当たり医師数が364.1人で全国平均237.8人、全道平均235.4人を大幅に上回る。同じく病床数も当市2,120.8床(全国平均1,237.7床、全道平均1,786.7床)。旭川医科大学では、道産食材の機能性分析など健康づくりの取組が行われている。
- ◆製造品出荷額で道内市中第7位と、人口規模に比べ低位。良質な素材を活用した売れる食品開発により付加価値を高め、外貨を稼ぐ必要がある。

地域活性化に向けた目標

- ◆中心市街地の魅力と機能の向上によって、まちなか居住の質・量が充実し、**定住人口が増加する状態**を目指す。
 - ・中心市街地人口:H25年度9,679人→H30年度10,300人
- ◆当市を訪れる人々に豊かな自然や美味しく健康的な食を提供し、**滞在者が増加する状態**を目指す。
 - ・宿泊延数:H24年度1,152,189泊→H30年度1,200,000泊
- ◆北・北海道の食材を活用した加工食品や健康食などの開発と販売により、**産業が活性化する状態**を目指す。
 - ・食料品製造出荷額:H24年500.4億円→H30年550億円

北のプラチナシティ“あさひかわ”を目指して
 — 誰もが多様な生きがいを見つける積雪寒冷都市 —

都市生活のハブ(つながり, 認め合い, 生きがいの実現)

まちなか定住人口の増加

交流人口(滞在者)の増加

食品製造出荷額の増加

「健康」のハブ機能

「食」のハブ機能

積雪寒冷地に築いた都市基盤を磨き上げ人々の活力に

自然の営み, 大地の恵みを人々の活力に

◆まちなかプラチナベースの整備
 (高齢者の心の健康づくり)
 (まちなか居住の更なる促進)

◆(仮称)SORAの駅
 食の一大バザールの整備

中心市街地で安心の暮らし
 多様な生きがいを提供

長期滞在の
 場を提供

技術者OB活用

健康食提供

健康食提供

○積雪寒冷地型スマートハウスの
 整備

○ストレスケアツールの推進

◆北の発酵FOODの開発

省エネな住まいを提供

健康食提供

◆アクティブ買物公園の整備
 ((仮称)パークレール)
 (天蓋付歩行空間)

高齢者が冬期間でも
 安心して外に出かける

○研究開発機能等を備えた
 給食センターの整備

技術者OB活用

“歩き”の相乗効果

○積雪寒冷地・高齢者対応ユニバーサル製品の開発

※「◆」は今回の提案のリーディングプランとなる取組

「健康」のハブ機能

《組み合わせて実施したい》

◆まちなかプラチナベースの整備 《生きがいがづくり (高齢者の心の健康づくり)》
 買物公園周辺に以下の機能を持つ拠点を整備
 ・仕事・学習・趣味を通じて高齢者に生きがいを提供
 ・シニアまちなかコンシェルジュ, シニアビジネスアドバイザーの設置
 ・質の高いサービスを提供する介護者養成の教育機関の設置

介護の人材の供給
 (産業として自立できる所得水準の確保)

シニアビジネスアドバイザーが助言等(技術者OBの活用)

◆北の発酵FOODの開発

地元食材を活用した安全で美味しい食事の提供

○ストレスケアツールの推進 (プライマリーケア)

- ・首都圏企業の従業員にストレスケア保養プログラム提供
- ・高齢者等が長期滞在して保養プログラム実践
- ・医療機関との連携により健康食等も提供

中心部の住宅を首都圏の高齢者などの癒やしの長期滞在拠点に

○積雪寒冷地型スマートハウスの整備
 地中熱利用などで省エネ化

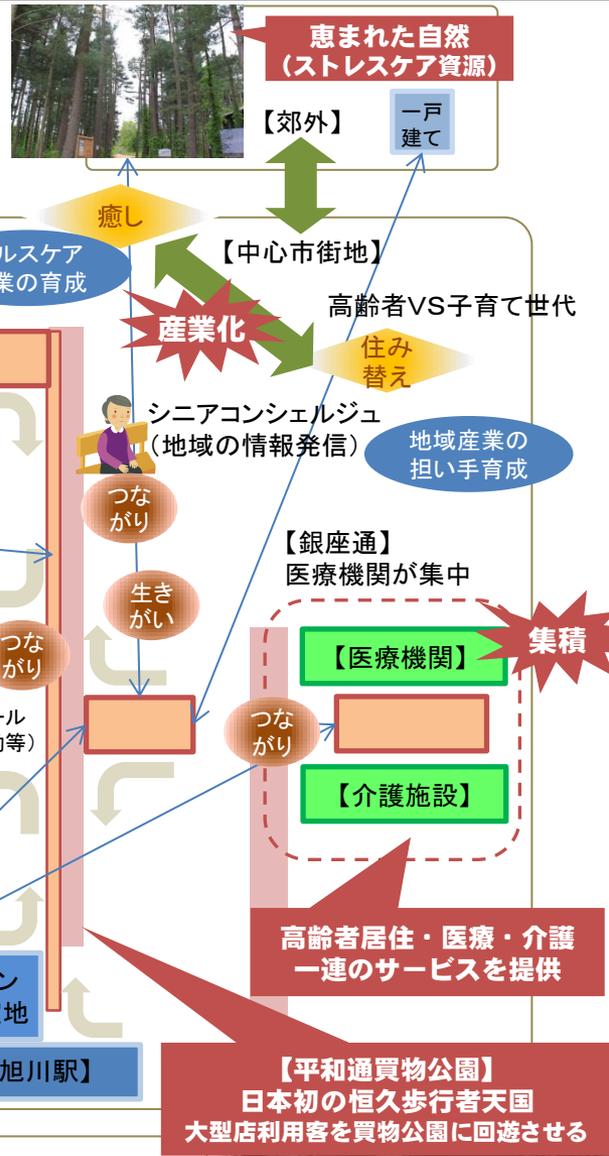
◆まちなかプラチナベースの整備 《暮らしの安心づくり (まちなか居住の更なる促進)》
 ・サービス付き高齢者住宅の建設促進
 ・郊外一戸建て高齢者と共同住宅の子育て世代の住み替え, 冬季集住推進
 ・高齢者向け住宅, 介護老人福祉施設, 医療機関, 憩いの場等の一体的整備を推進

《実現したい》

- 冬期間でも高齢者等が安心して出歩ける歩行空間
- 医療機関が集中する中心市街地で高齢者等が安心の生活
- 高齢者が学び, 仕事, 趣味など多様な生きがいを実践できる空間
- ストレスケアなど健康保養のため長期滞在ができる空間

まちなか定住人口の増加

日本初



地域住民のみならず首都圏の高齢者などが健康に暮らし, 多様な生きがいを実現

【平和通買物公園】
 日本初の恒久歩行者天国
 大型店利用者を買物公園に回遊させる



